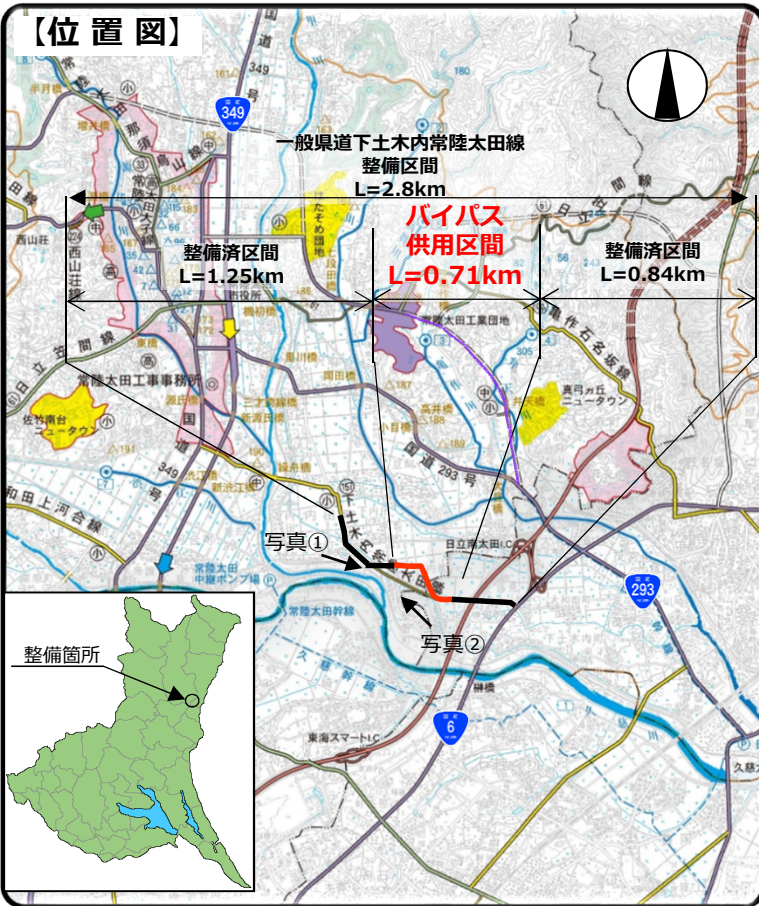


バイパス整備に伴う歩行者の安全と円滑な交通確保

しもどぎうちひたちおおた
— 一般県道下土木内常陸太田線 バイパス供用開始 —

【位置図】



【事業概要】

- ・事業箇所： 日立市神田町～常陸太田市内田町
- ・延長： 2.8 km
- ・幅員： 10.0/6.0m (2車線・片側歩道)
- ・事業費： 約14億円

しもどぎうちひたちおおた
一般県道下土木内常陸太田線は、日立市神田町の国道6号と常陸太田市磯部町の国道349号を結び、経済活動や地域の方々の日常生活を支える役割を担う、県北地域の幹線道路です。

しかしながら、幅員が狭く歩道がないため、歩行者の安全確保が困難の箇所や交互通行に支障をきたす箇所があるなど課題がありました。

県では、日立市神田町から常陸太田市内田町までの約2.8km区間の現道拡幅やバイパス整備を平成16年から進め、令和元年9月26日に0.7kmのバイパス区間が供用され、このたび全線供用することになりました。

この整備により、車道の幅員が広がり歩道が整備されたことで、歩行者の安全確保や交通の円滑化が図られました。

また、周辺道路交通の分散化や災害時の避難路としての役割を担うことが期待されています。

整備後 (バイパス)

- ◎歩行者の安全確保
(幅員：10.0m、2車線・片側歩道)
- ◎車両の交通が円滑化
(整備区間の通過時間：10分程度短縮)

整備効果

整備前 (旧道)

- ×幅員が狭く、歩道がない
(幅員：4.4m、歩道なし)
- ×交互通行に支障をきたしている

写真②

バイパス

旧道

写真①

至 常陸太田市

至 日立市